

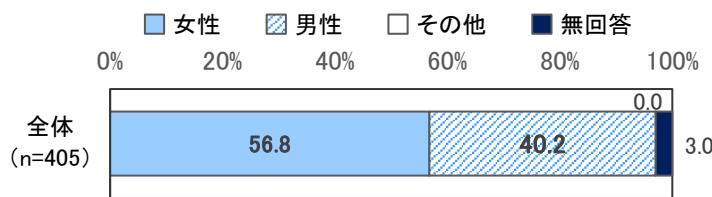
男女共同参画に関する市民意識調査の結果(概要版)

1 調査の概要

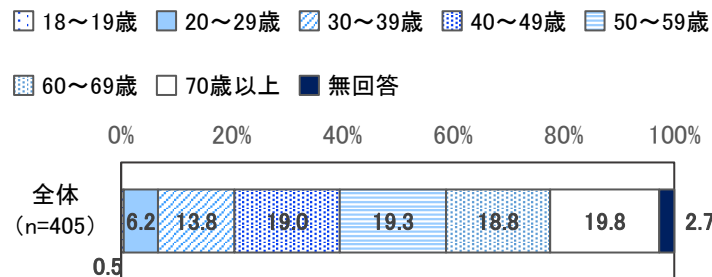
区分	対象	調査方法	調査期間	回収数	回収率
市民	市内在住の 18 歳以上 80 歳未満の市民 1,300 人を無作為抽出	郵送による配布・回収	令和 4 年 2 月 17 日から 3 月 3 日まで	405	31.2%

2 回答の概要

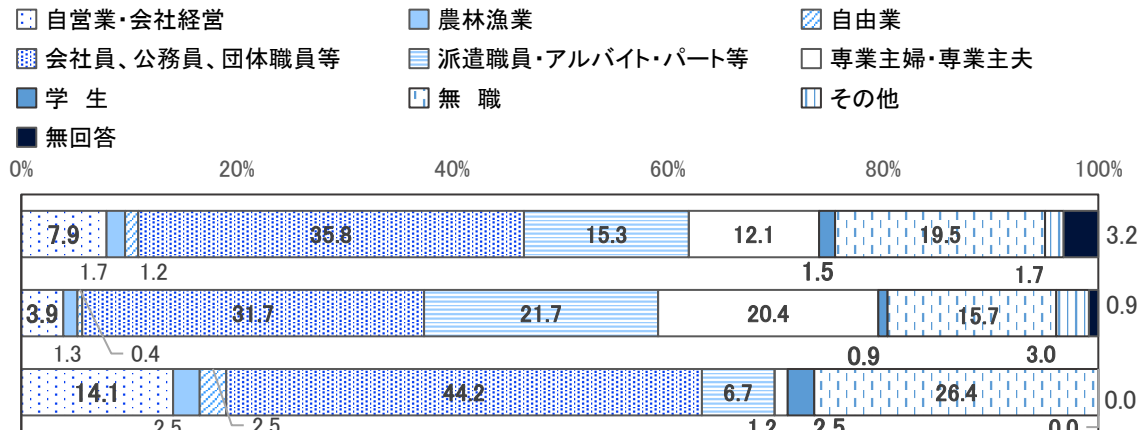
◆性別



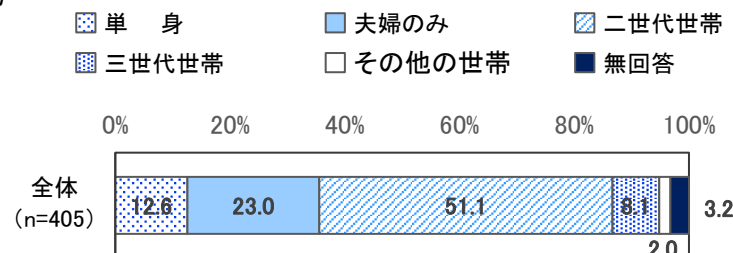
◆年齢



◆職業



◆家族構成

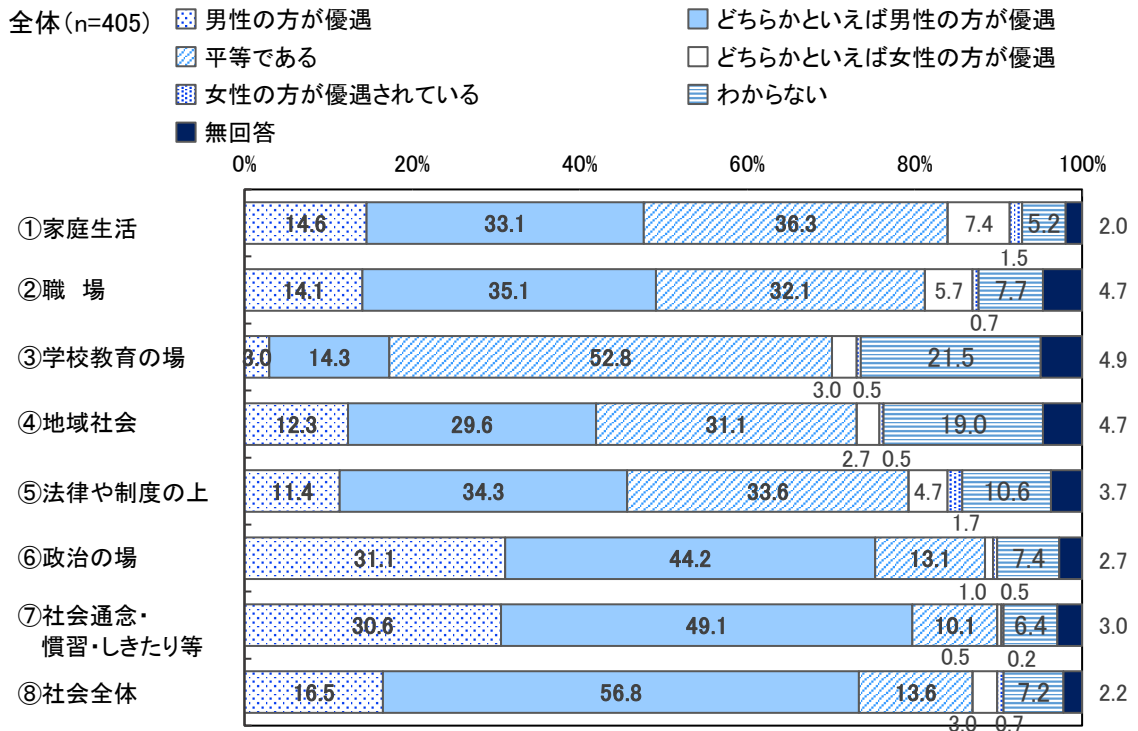


3 男女平等意識について

(1) 男女の地位の平等感
 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野ごとに、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。

●「平等である」は「③学校教育の場」で最も高い。

社会における各分野(8分野)の男女の地位の平等について尋ねたところ、「平等である」という回答が最も高い分野は「③学校教育の場」(52.8%)で、次いで「①家庭生活」(36.3%)、「⑤法律や制度の上」(33.6%)となっている。また、「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」をあわせた「男性優遇」という回答は「⑦社会通念・慣習・しきたり等」(79.7%)で最も高く、次いで「⑥政治の場」(75.3%)となっており、すべての分野で「男性優遇」が、「女性が優遇」と「どちらかといえば女性が優遇」をあわせた「女性優遇」を上回っている。

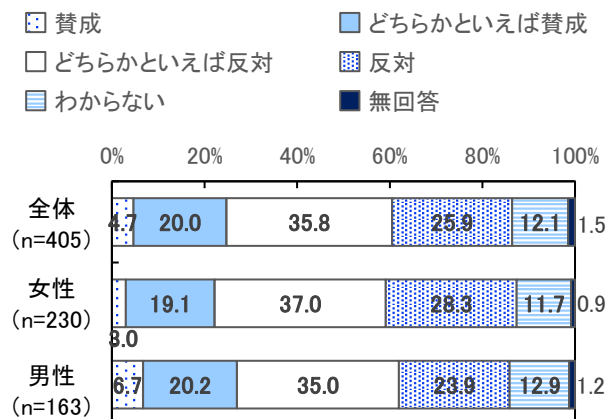


(2) 固定的な性別役割分担意識(「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方)
 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどのように思いますか。

●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、反対派が賛成派を上回る。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「どちらかといえば反対」が 35.8%で最も高く、これに「反対」(25.9%)をあわせた「反対派」は 61.7%となっている。一方、「どちらかといえば賛成」(20.0%)と「賛成」(4.7%)をあわせた「賛成派」は 24.7%となっており、「反対派」が「賛成派」よりも 37.0ポイント高くなっている。

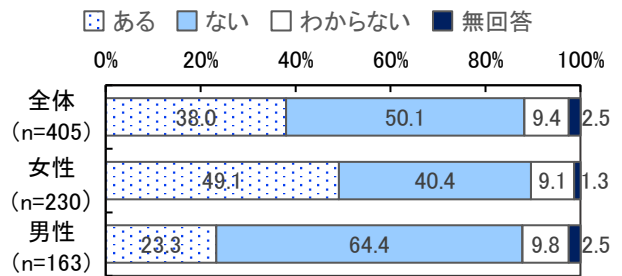
性別で見ると、女性では「反対派」が 65.3%、男性では 58.9%となっており、女性の「反対派」が男性よりやや高い傾向がみられた。



(3) 性別による負担感や生きづらさを感じたことの有無
 あなたは、「女性であること」又は「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。

●女性の約半数が性別による負担感や生きづらさを感じている。

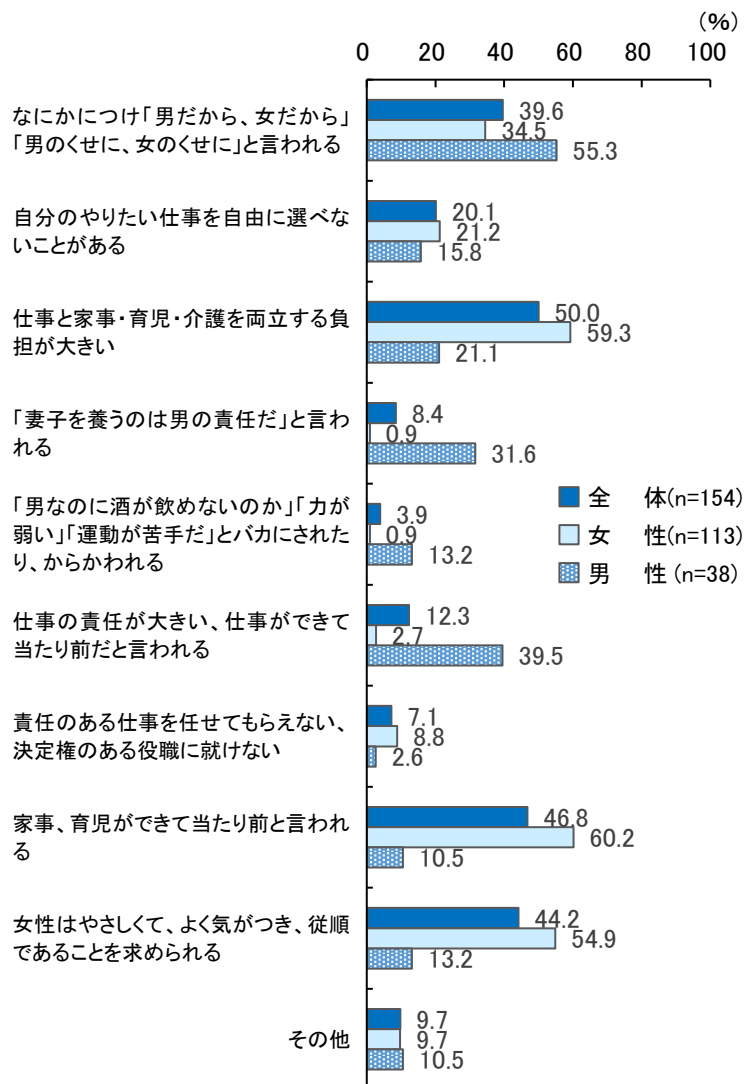
「女性であること・男性であること」によって感じた負担感や生きづらさの有無について尋ねたところ、「ある」が38.0%、「ない」が50.1%、「わからない」が9.4%となっている。
 性別にみると、「ある」と回答した女性は49.1%、男性は23.3%となっており、女性は男性よりも25.8ポイント高くなっている。



(4) 性別による負担感や生きづらさを感じた理由
 「女性であること」又は「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じた理由を選んでください。
 【複数回答】

●女性は「家事、育児ができて当たり前と言われる」が、男性は「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」が最も高くなっている。

「女性であること・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことがあるとした人(154人)にその理由について尋ねたところ、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が50.0%で最も高く、次いで「家事、育児ができて当たり前と言われる」(46.8%)、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(44.2%)となっている。
 性別にみると、女性は「家事、育児ができて当たり前と言われる」「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」が高くなっている。男性は「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」が高くなっている。

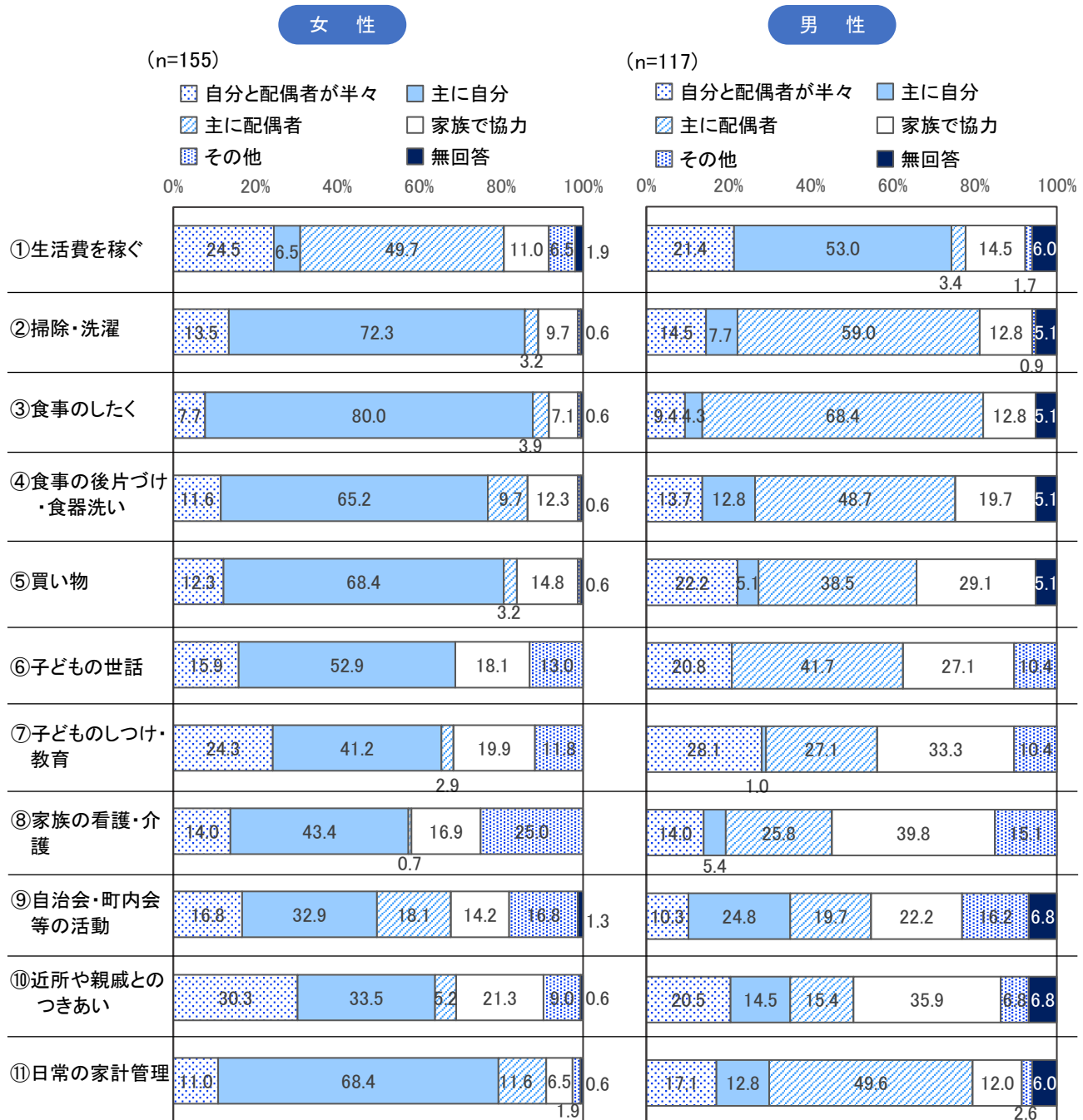


4 家庭や地域における活動・役割分担について

(1) 夫婦の役割分担（現実）
 実際のあなたの家庭では、次のことがらをだれが分担をしていますか(⑥⑦⑧については該当する方のみ)。

●生活費を稼ぐことは男性中心、家事は女性中心となっている。

『①生活費を稼ぐ』では男性が中心、『②掃除・洗濯』、『③食事のしたく』、『④食器の後片づけ・食器洗い』、『⑤買い物』など家事では女性が中心となるなど夫婦・家族で協力ではなく役割分担が明確となっている。

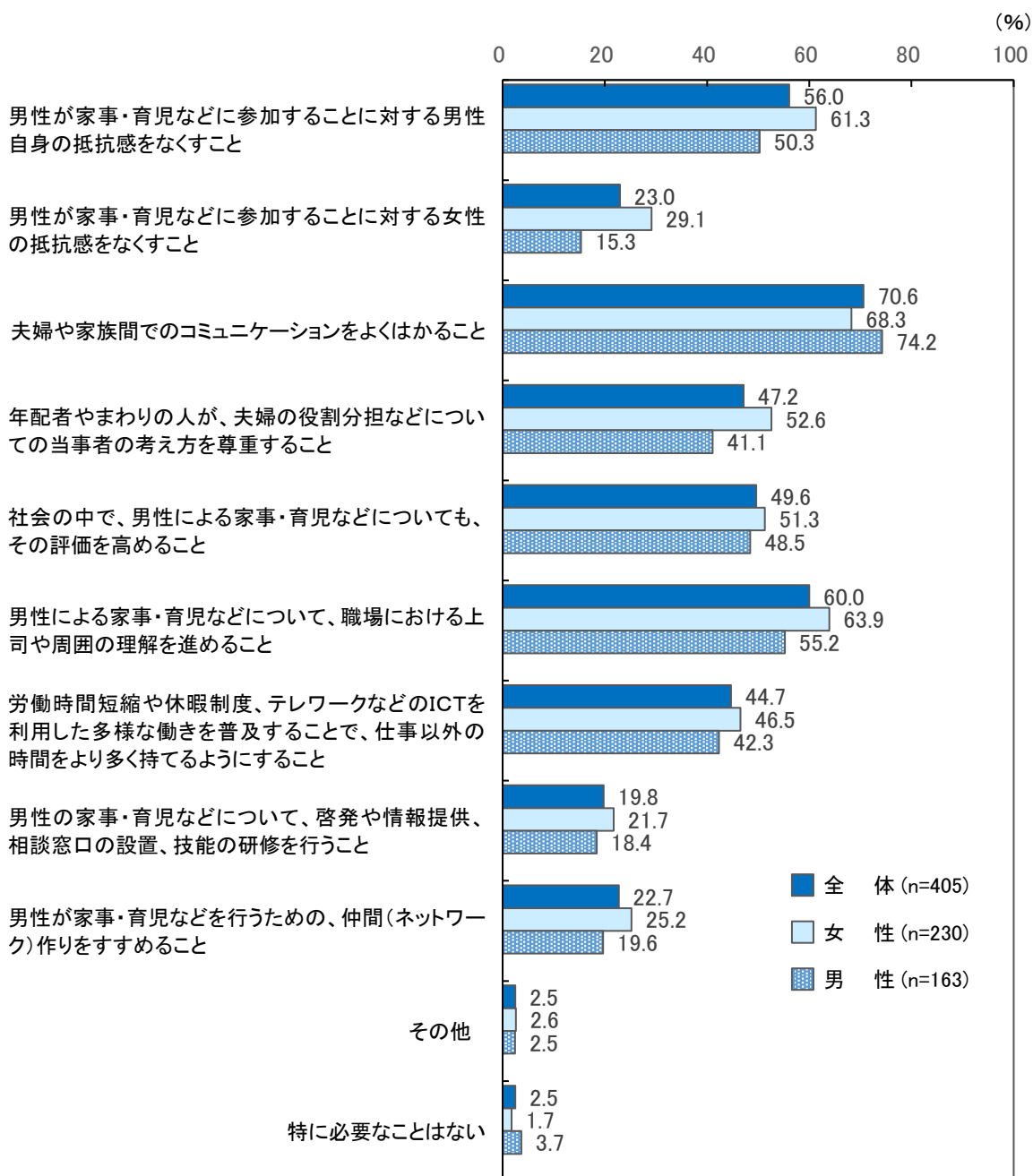


(2) 家事等への男性の参画に必要なこと
 あなたは、今後男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動などに、積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

●「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高い。

家事等への男性の参画に必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が70.6%で最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(60.0%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(56.0%)の順となっている。

性別で見ると、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性:61.3%、男性:50.3%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」(女性:29.1%、男性:15.3%)、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」(女性:52.6%、男性:41.1%)、では、女性が男性を10ポイント以上上回っている。

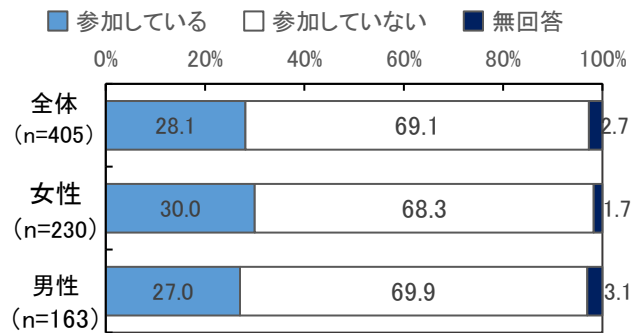


(3) 地域活動の参加状況
 あなたは、地域活動や市民活動に現在参加していますか。

●「参加している」が約3割、「参加していない」が約7割

地域活動への参加については、「参加している」が28.1%、「参加していない」が69.1%と、「参加していない」が「参加している」を大きく上回る。

性別でみても、男女ともに「参加している」が約3割となっている。

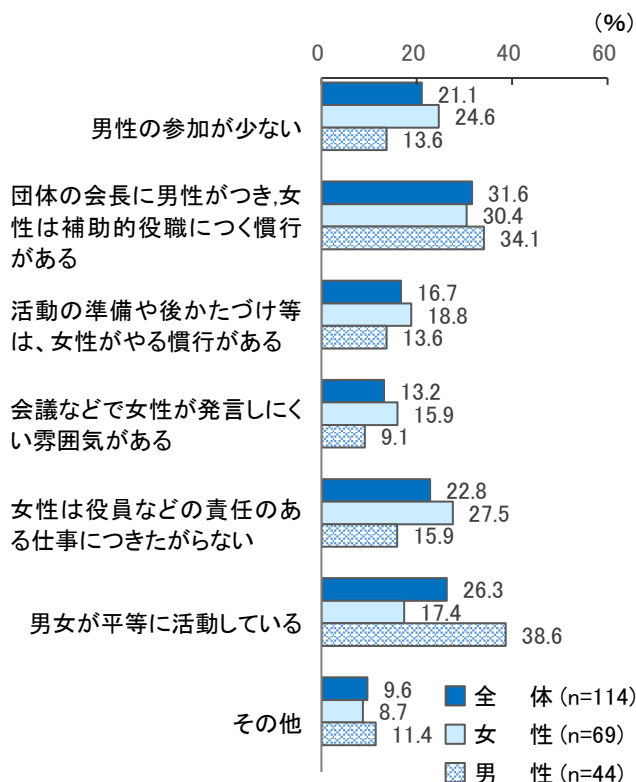


(4) 地域活動の現状
 あなたは、地域活動等の現状について、どのように思いますか。【複数回答】

●「会長には男性、補助的役職には女性がつく」が最も高く、次いで「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」が続く。

地域活動に「参加している」と答えた人(114人)に、地域活動等の現状について尋ねたところ、「会長には男性、補助的役職には女性がつく」(31.6%)が最も高く、次いで「男女平等に活動している」(26.3%)「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」(22.8%)、「男性の参加が少ない」(21.1%)などの順となっている。

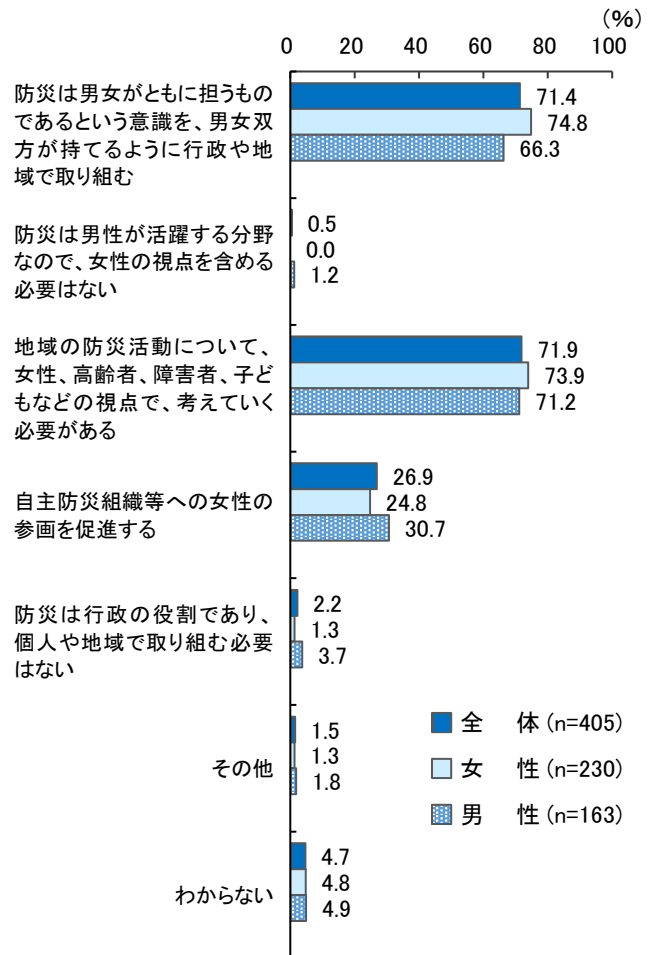
性別でみると、男性では「男女が平等に活動している」(38.6%)と答える割合が最も高く、女性(17.4%)より21.2ポイント高い。



(5) 防災活動の推進
 あなたは、地域の防災(災害対応)活動を推進するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

●「防災活動には女性、高齢者等の視点が必要」及び「男女がともに担うという意識を持てるようにすること」が必要

防災活動の推進について必要なことを尋ねたところ、「防災活動には女性、高齢者等の視点が必要」(71.9%)が最も高く、次いで「男女が共に担うという意識を持てるようにすること」(71.4%)となっている。



5 就業・仕事について

(1) 女性の働き方

あなたは、女性の仕事についてどのように思いますか。あなたが女性の場合はあなた自身について、男性の場合はあなたのパートナー(いない場合はいると仮定して)について、「(1)理想」と「(2)現実」をお答えください。

理想

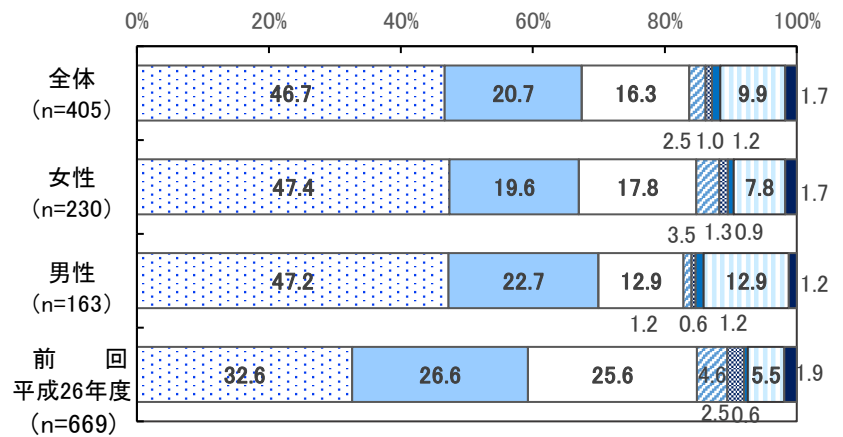
●「仕事は定年まで続ける」が最も高く、次いで「子育て時期に一度やめてフルタイムで復帰」が続く。

女性の働き方の理想について尋ねたところ、「仕事は定年まで続ける」が46.7%で最も高く、次いで「子育て時期に一度やめてフルタイムで復帰」(20.7%)、「子育て時期に一度やめてパートタイムで復帰」(16.3%)などの順となっている。

性別でみると、男女ともに「仕事は定年まで続ける」が最も高く、次いで「子育て時期に一度やめてフルタイムで復帰」が続く。

前回調査と比較すると、「仕事は定年まで続ける」が14.1ポイント増加している。

- 仕事は定年まで続ける
- 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 子どもができたらず仕事はやめる
- 結婚したら仕事はやめる
- 仕事はもたない
- わからない
- 無回答



現実

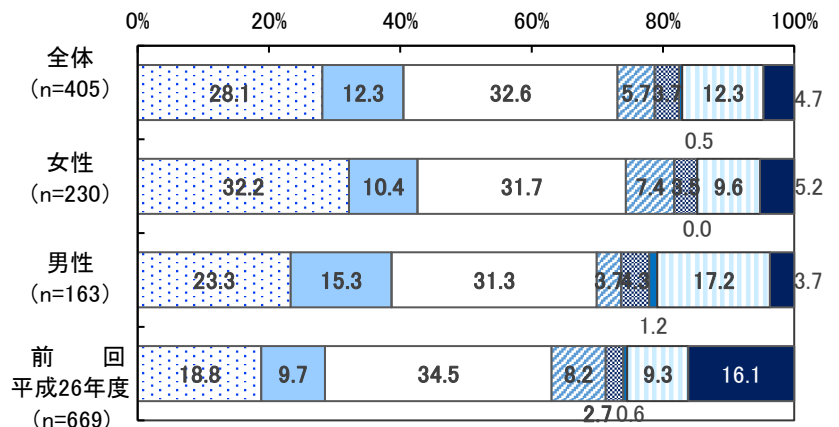
●「子育て時期に一度やめてパートタイムで復帰」が最も高い。

女性の働き方の現実について尋ねたところ、「子育て時期に一度やめてパートタイムで復帰」が32.6%で最も高く、次いで「仕事は定年まで続ける」(28.1%)、「子育て時期に一度やめてフルタイムで復帰」(12.3%)などの順となっている。

性別でみると、男女ともに「子育て時期に一度やめてパートタイムで復帰」が最も高く、大きな差はみられない。

前回調査と比較すると、「仕事は定年まで続ける」が9.3ポイント増加している。

- 仕事は定年まで続ける
- 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 子どもができたらず仕事はやめる
- 結婚したら仕事はやめる
- 仕事はもたない
- わからない
- 無回答



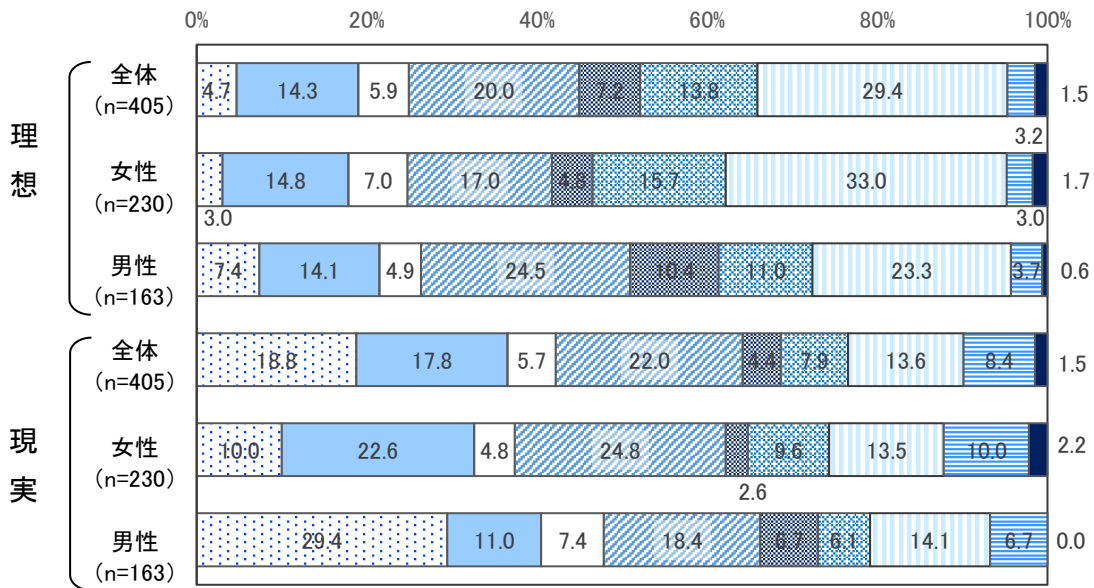
(2) ワーク・ライフ・バランスの理想と現実
 日常生活における、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、「(1)あなたの希望(理想)に最も近いもの」と、「(2)あなたの現実(現状)に最も近いもの」をお答えください。

●「理想は「仕事と家庭生活と個人生活をともに優先」、現実には「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高い。

日常生活の優先度について尋ねたところ、理想の優先度は「仕事と家庭生活と個人生活をともに優先」が29.4%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活を優先」(20.0%)、「家庭生活を優先」(14.3%)などの順となっている。一方、現実の優先度は「仕事と家庭生活を優先」が22.0%で最も高く、次いで「仕事を優先」(18.8%)、「家庭生活を優先」(17.8%)などの順となっている。

性別でみると、理想の優先度は、女性は「仕事と家庭生活と個人生活をともに優先」(33.0%)が最も高く、男性では「仕事と家庭生活をともに優先」(24.5%)が最も高い。現実の優先度では、女性は「仕事と家庭生活を優先」(24.8%)が最も高く、次いで「家庭生活を優先」(22.6%)となっており、男性では「仕事を優先」(29.4%)が最も高く、次いで「仕事と家庭を優先」(18.4%)となっている。現実の優先度では男性は女性より「仕事を優先」という回答が高く、女性は男性より「家庭生活を優先」という回答が高くなっている。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい
- わからない
- 無回答



(3) 男性の育児休業・介護休業制度の利用の妨げとなっているもの

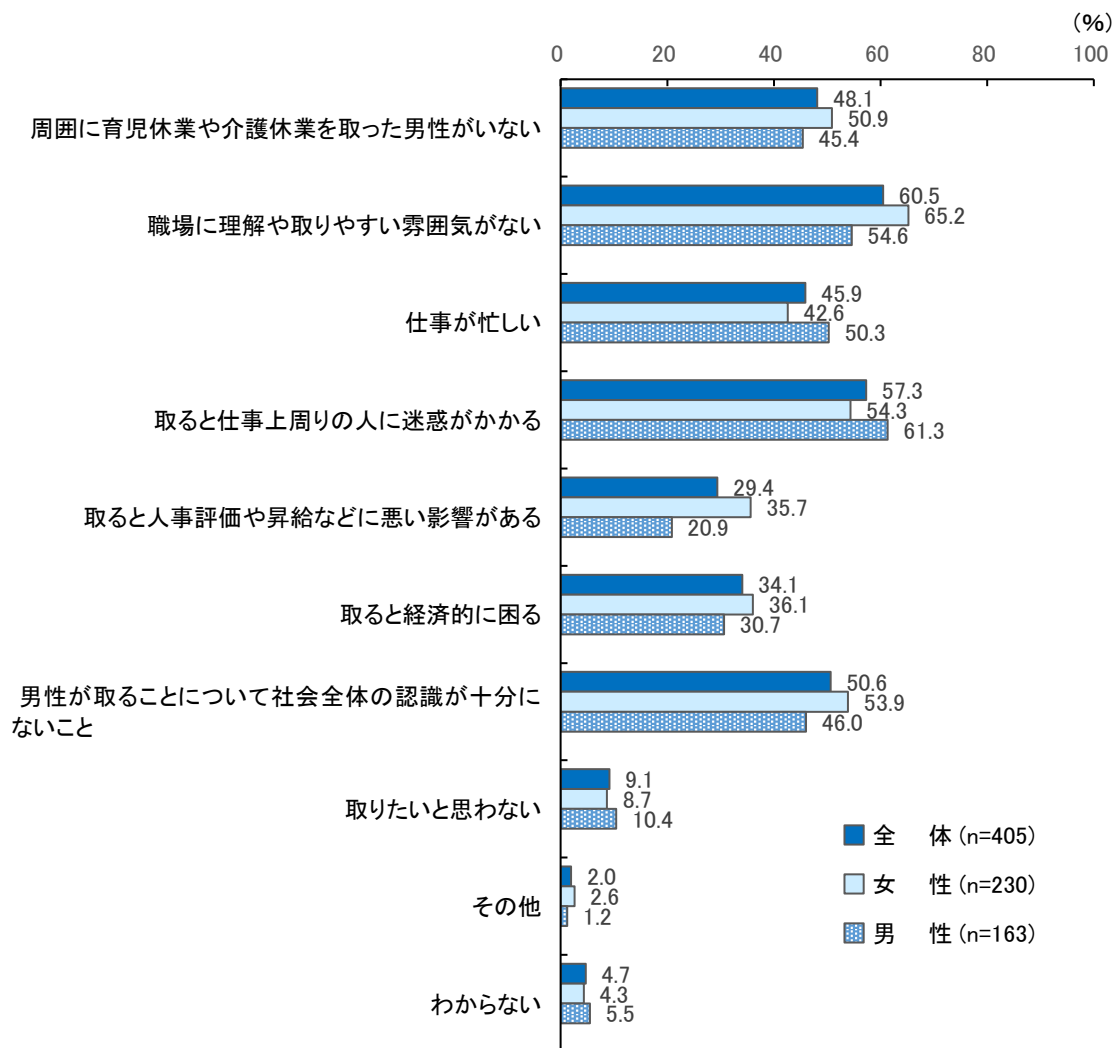
男性が「育児休業・介護休業制度」を利用するための妨げとなっているものは何だと思えますか。

【複数回答】

●「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」が最も高い。男性では「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること」という回答が高い。

全体でみると、「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」が60.5%で最も高く、次いで、「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること」(57.3%)、「男性が取ることに社会全体の認識が十分でないこと」(50.6%)、「周囲に育児休業や介護休業を取った男性が少ないこと」(48.1%)となっている。

性別でみると、「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」は、男性(54.6%)より女性(65.2%)で10.6ポイント高く、「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること」は、女性(54.3%)より男性(61.3%)で7ポイント高くなっている。



6 子育て・教育について

(1) 子育てに関する考え方
 あなたは、子どもの育て方に関する次の①～④のような考え方について、どのように思いますか。【複数回答】

①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てる

●肯定派が女性では4割弱、男性では約6割

女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるという考え方については、肯定派は47.4%と約半数になる。一方、「否定派」は43.2%となっている。なお、「わからない」は5.4%であった。

性別で見ると、「肯定派」は女性で36.5%、男性で60.7%となっている。

③ 男の子も家事、育児ができるように育てる

●肯定派が男女ともに約9割

男の子も家事、育児ができるように育てる考え方については、「肯定派」は90.1%にのぼる。一方、「否定派」は3.4%にとどまる。なお、「わからない」は3.7%であった。

性別で見ると、「肯定派」が女性では93.0%、男性では87.7%となっており、特に女性は「そう思う」が60.4%と男性の44.8%を大きく上回る。

②女の子も経済的自立ができるように育てる

●肯定派が男女ともに9割以上

女の子も経済的自立ができるように育てる考え方については、「肯定派」が92.3%にのぼる。一方、「否定派」は2.5%にとどまる。なお、「わからない」は2.7%であった。

性別で見ると、男女ともに「そう思う」が最も高く、特に女性(60.9%)が男性(54.6%)を上回っており、「肯定派」は男女ともに9割を超える。

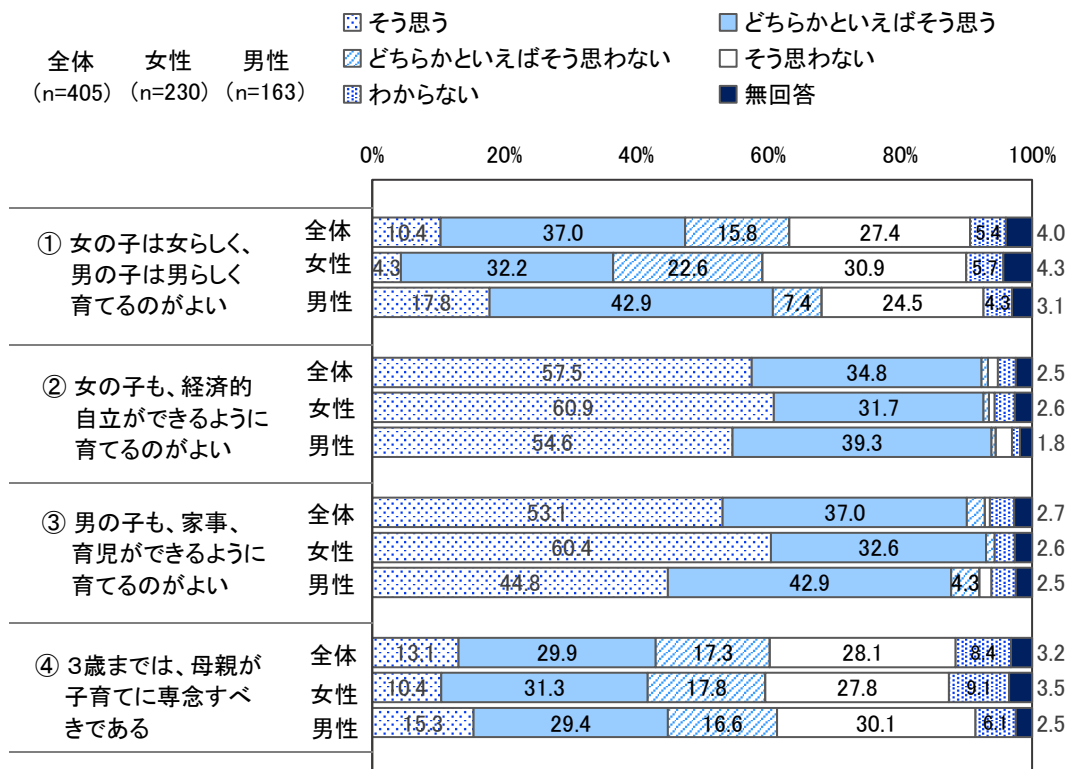
④ 3歳までは母親が子育てに専念すべき

●肯定派が男女ともに約9割

3歳までは母親が子育てに専念すべきという考え方については、「肯定派」が43.0%となっている。一方、「否定派」は45.4%となっている。なお、「わからない」は8.4%であった。

性別で見ると、「肯定派」が女性では41.7%、男性では44.7%となっており、大きな差はみられない。

※肯定派:「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計、否定派:「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」の合計

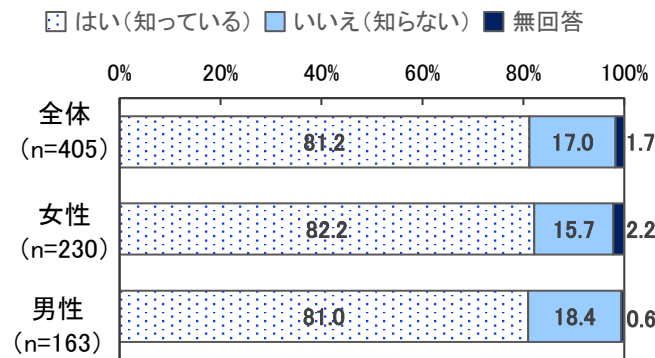


7 セクシュアルマイノリティ(LGBT等)について

(1) セクシュアルマイノリティ(LGBT等)についての認知度
 あなたはセクシュアルマイノリティ(又は LGBT 等)という言葉を知っていますか。

●セクシュアルマイノリティ(又は LGBT 等)についての認知度は高い

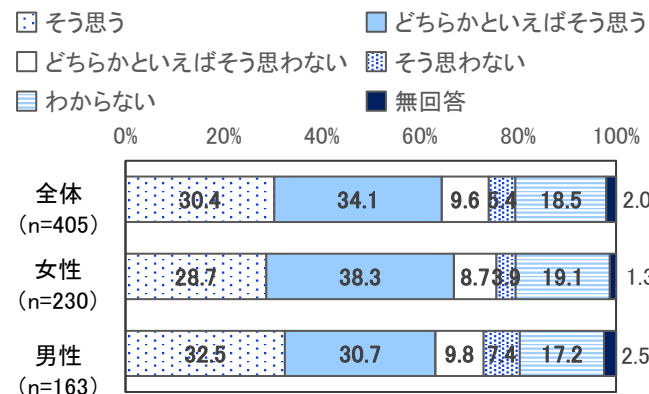
セクシュアルマイノリティ(又は LGBT 等)についての認知度を尋ねたところ、「知っている」は 81.2%となっており、認知度が高い



(3) セクシュアルマイノリティ(LGBT等)とっての現在の社会
 現在、セクシュアルマイノリティ(又は LGBT 等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しやすい社会だと思いますか。

●現在、セクシュアルマイノリティにとって生活しやすい社会であると思う、「どちらかといえば思う」との回答は合わせて約6割

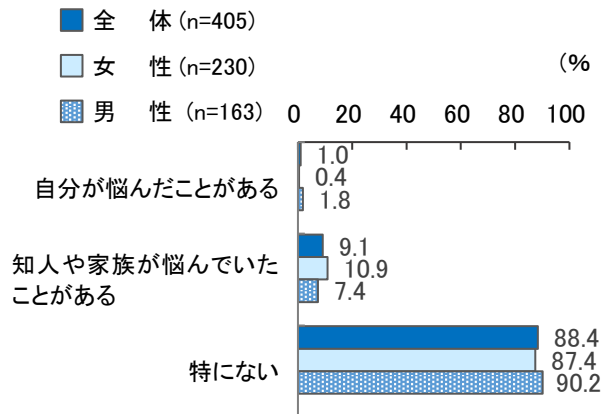
セクシュアルマイノリティ又は LGBT 等)の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しやすい社会であるか尋ねたところ、「そう思う」が 30.4%、「どちらかといえばそう思う」が 34.1%となっており、「そう思わない」(5.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(9.6%)を上回っている。



(2) 性のあり方についての悩みの経験
 あなたは今までに自分の身体の性、心の性又は性的指向(同性愛など)に悩んだり、あるいは身近で悩んでいる人がいましたか。【複数回答】

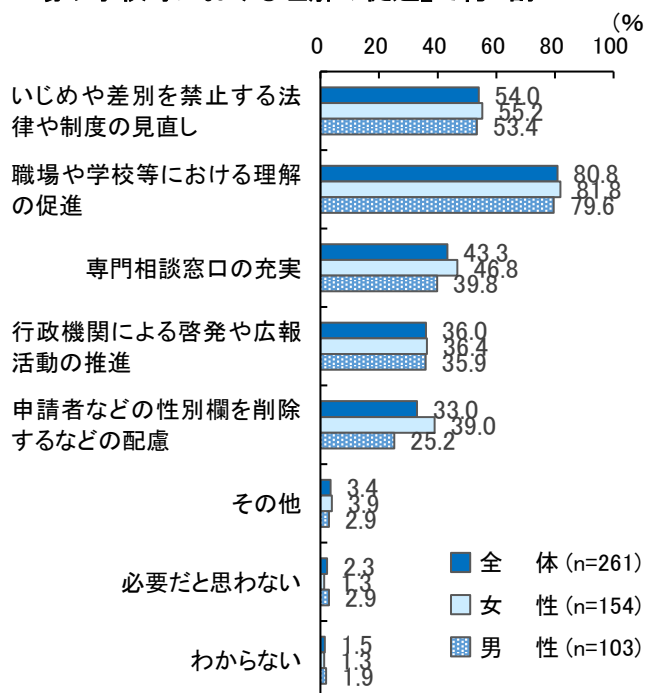
●自分や自分の周りで悩んでいる人は約1割

セクシュアルマイノリティ(又は LGBT 等)について悩んでいる人は、約1割



(4) 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要だと思う取組
 あなたは、セクシュアルマイノリティ(又はLGBT等)の方々に対する理解の促進や支援にはどのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

●セクシュアルマイノリティの方々が生かすようになるために必要な対策として、最も多かったのは『職場や学校等における理解の促進』で約8割



8 男女の人権に関する問題について

(1) DVについての認識
 あなたは、次のようなことが、夫婦や恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

●身体的暴力・性的暴力に比べて、精神的暴力・経済的暴力・社会的暴力への認識が低い。男女での認識の差が大きい項目は、『⑩「誰のおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う』、『⑪大声でどなる』など。

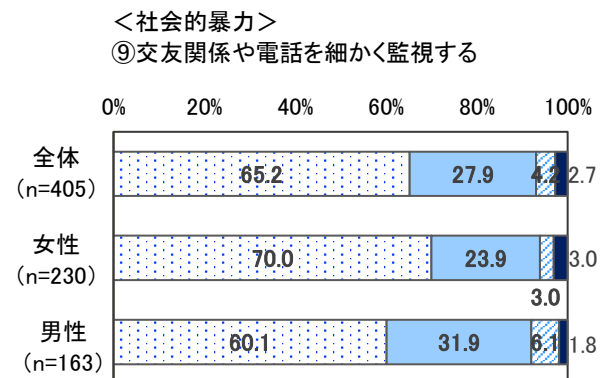
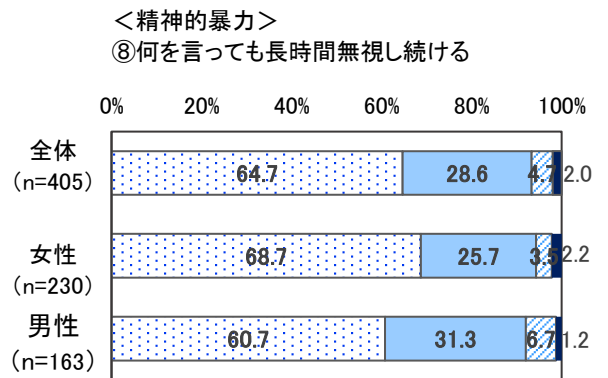
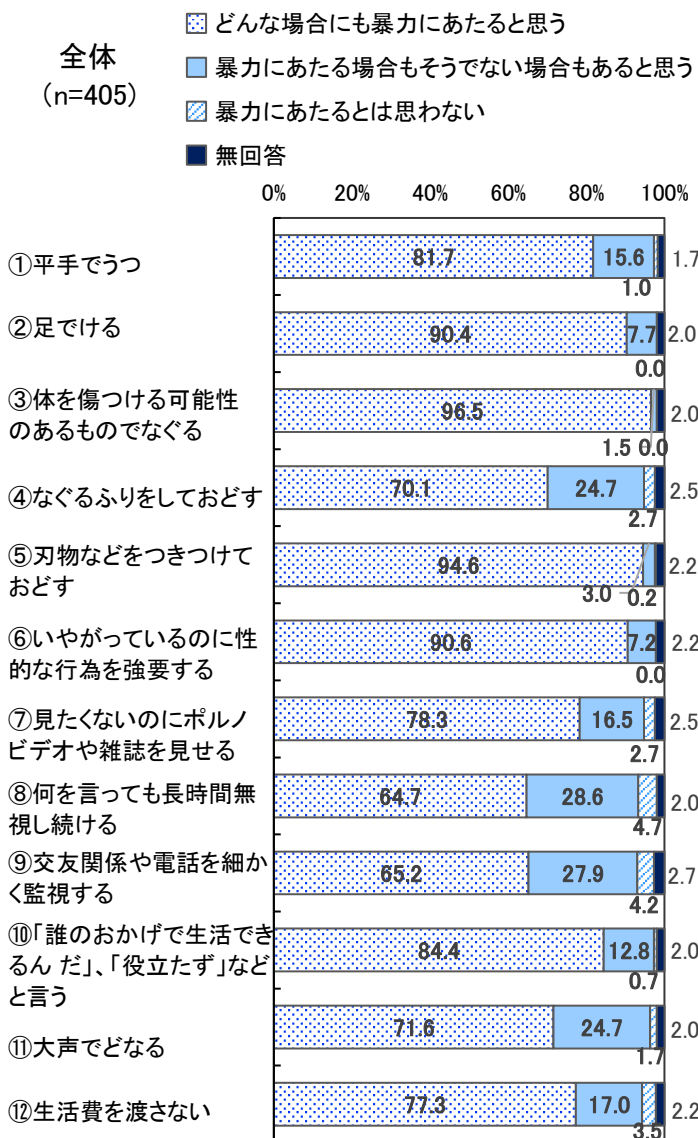
配偶者や恋人への12の行為について、暴力に当たる行為かどうかを尋ねた結果をみると、身体的暴力については、『②足でける』『③体を傷つける可能性のあるものでなぐる』『⑤刃物などをつきつけておどす』では9割を超える人が暴力と認識している。

また、『①平手で打つ』は8割強、『④なぐるふりをしておどす』は7割の人が暴力として認識している。

性的暴力である『⑥いやがっているのに性的な行為を強要する』は9割、『⑦見たくないのにポルノビデオや雑誌を見せる』は8割弱の人が暴力として認識している。

精神的暴力や経済的暴力、社会的暴力では、『⑩「誰のおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う』は8割を超え、『⑫生活費を渡さない』は約8割、『⑪大声でどなる』は7割強となっているが、『⑧何を言っても長時間無視し続ける』『⑨交友関係や電話を細かく監視する』は6割半ばと暴力と認識している人が比較的低い。

12の行為のうち、『④なぐるふりをしておどす』『⑧何を言っても長時間無視し続ける』『⑨交友関係や電話を細かく監視する』『⑩「誰のおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う』『⑪大声でどなる』『⑫生活費を渡さない』では、女性より男性の方が暴力にあたる認識が低い傾向がみられた。

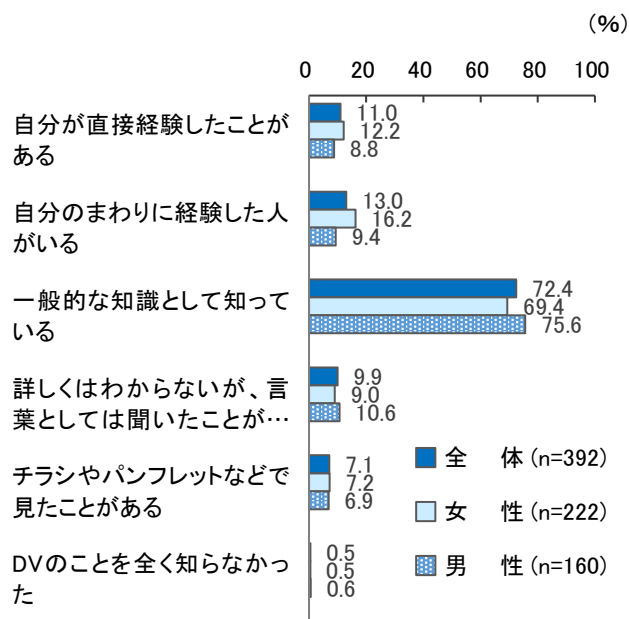


(2) DV経験の有無
 ドメスティック・バイオレンス(DV)は、配偶者や恋人など親密な関係にある相手からの暴力のことで、身体的・精神的・経済的暴力など様々な形があります。暴行などに当たる行為は犯罪であり、重大な人権侵害です。あなたはこれまでにこのような暴力を経験したり、見聞きしたことがありますか。【複数回答】。

●「一般的な知識として知っている」が最も高い。
 女性では「自分のまわりに経験した人がいる」、
 「自分が直接経験したことがある」という回答が
 男性を上回る。

DVについて尋ねたところ、「一般的な知識として知っている」が72.4%で最も高く、「自分のまわりに経験した人がいる」が13.0%、「自分が直接経験したことがある」が11.0%などとなっている。

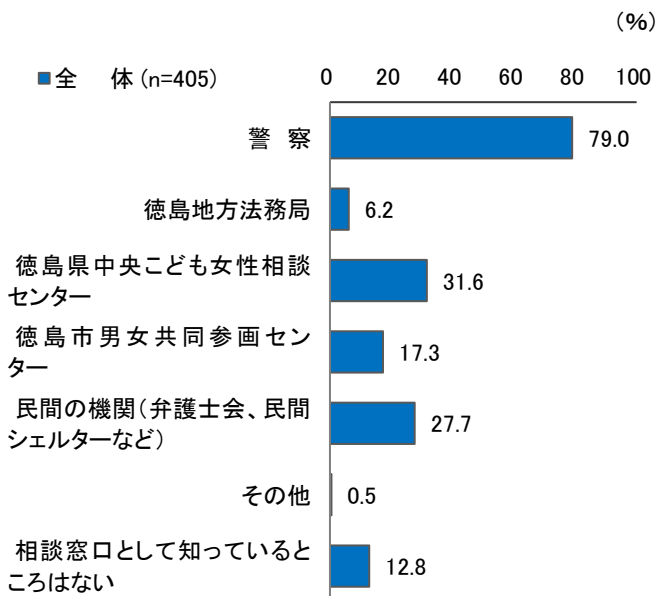
性別でみると、女性では「自分のまわりに経験した人がいる」、「自分が直接経験したことがある」という回答が男性を上回る。



(3) DV相談窓口
 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)について相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。【複数回答】

●「警察」が最も多い。
 次いで「徳島県中央こども女性相談センター」、
 「民間の機関」、「徳島市男女共同参画センター」
 などの順。

知っているDV相談窓口については、「警察」が79.0%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「徳島県中央こども女性相談センター」(31.6%)、「民間の機関」(27.7%)、「徳島市男女共同参画センター」(17.3%)などの順となっている。なお、「知っているところはない」は12.8%であった。

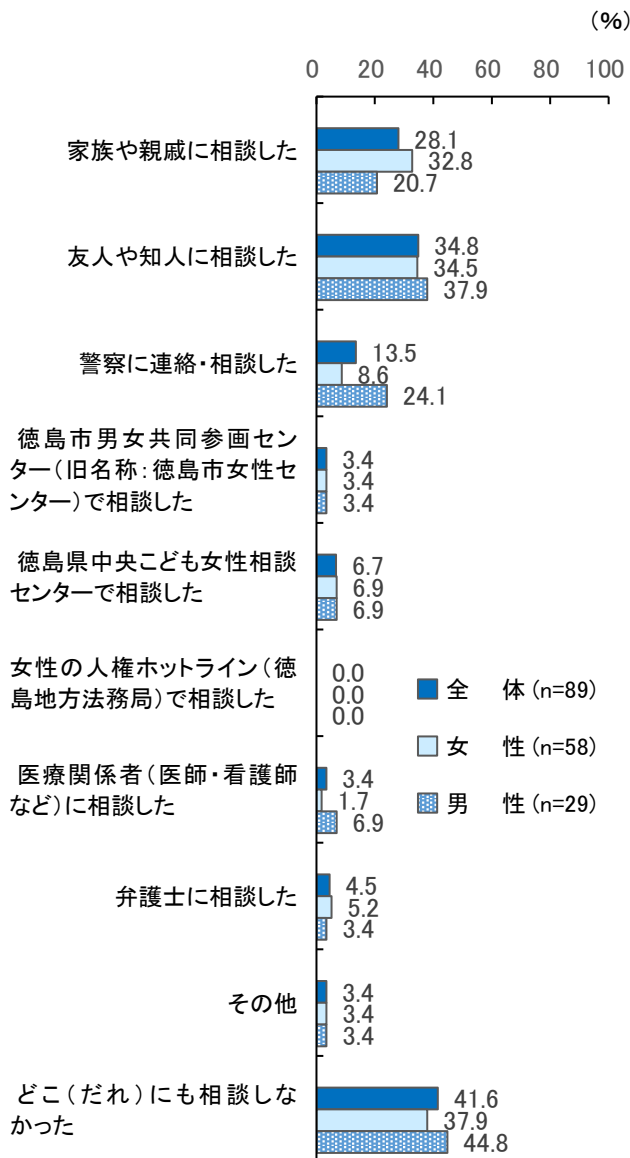


(4) DV相談の有無
 あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 【複数回答】

●「誰にも相談しなかった」が最も高い。

DVを「自分が直接経験したことがある」又は「自分のまわりに経験した人がいる」と答えた人(89人)に、DVについての相談の有無について尋ねたところ、「誰にも相談しなかった」が41.6%で最も高く、次いで「友人や知人に相談した」(34.8%)、「家族や親戚に相談した」(28.1%)、「警察に連絡・相談した」(13.5%)などの順となっている。

性別でみると、男女ともに「誰にも相談しなかった」が最も高い。



(5) DVを相談しなかった理由
 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、どんな理由からですか。
 【複数回答】

●「誰にも相談してよいかわからなかった」が最も高い。

「誰にも相談しなかった」と答えた人(37人)に、その理由について尋ねたところ、「誰にも相談してよいかわからなかった」が27.0%で最も高く、次いで「相談してもむだと思った」及び「他人を巻き込みたくなかった」(同率24.3%)、となっている。

性別でみると、女性では「他人を巻き込みたくなかった」(27.3%)、男性では「どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから」(46.2%)がそれぞれ最も高くなっている。

